制　作

若栗公民館
若栗自治振興会

協　力

若栗保育所

平成２７年１月

今日は待ちに待った新幹線の開業日。平成二十七年三月十四日土曜日です。

黒部市若栗に住む若埜さん一家は家族全員で東京へ行く事にしました。

もちろん乗車駅は黒部宇奈月温泉駅です。

駅舎は、とても明るくて、新しいにおいがプンプンしています。

ホームに立っていると、ぴっかぴかの「はくたか」が「ビューン」と音を鳴らしながら走ってきました。「速い」家族全員でさけびました。

さぁーいよいよ乗車です。

車内で若雄くんが言いました。「おじいちゃん、なんで若栗に駅が出来たの」

すると栗子ちゃんも「わたしも不思議なんだよなー」と言いました。

「それわな、長～い長い歴史があってな。たくさんの人達のおかげ様で実現したんじゃよ」とおじいちゃんが言いました。

「そうだ、それなら、東京に着くまでに、おいしいます寿しを食べながら、おじいちゃんの話を聞こうじゃないか」とおとうさんが言うと、

「賛成。賛成」とおばあちゃん、お母さん、そして若雄くんと栗子ちゃん家族みんなで、手をたたきました。そしておじいちゃんの話が始まりました。

今から約五〇年前の昭和三十九年に開業した、東海道新幹線の成功で、翌年の四十年に初めて、北陸新幹線の構想が生まれたのじゃ。それはな、東海道新幹線のバイパスとして必要だったから計画されたんじゃよ。災害の事も考えてな。だけどな、四十六年の第一次計画には、東北と上越の新幹線は認められたけど、北陸はだめだったんじゃよ」

「あらまあ、どうして」とおばあちゃんが言いました。

「それは当時、東北と上越のふたつの路線は列車に乗る人が多くてな。その解決策として、考えられたためなんだよ」とおじいちゃんが言いました。

「しかし、二年後の昭和四十八年に北陸新幹線の予算が計上され、おおむね十年後の開業を計画し、これで、東北・上越に負けないぞと思っていたのに…まさか！この二年間の遅れが、誰も予想しなかった気の遠くなる遅れとなったのじゃ」

　そう言えば、上越新幹線は、何度も乗ってるし、ずーっと前から走っているよな」とおとうさんが言いました。

　「おじいちゃん、おじいちゃん、はやく、続きを教えてくださいな」とおばあちゃんが言いました。

　「わかったぞ。その年の秋に大きな不況が始まったんじゃ。それで、政府は、大きなお金がかかる新幹線をストップしたんじゃよ。そのあと、景気が回復して、ストップが解除されたり、またストップしたり、その繰り返したっだんじゃ。」

　「不況がこんなに遅れた原因だったんだね」と若雄くんが言いました。

　「新幹線って大きなお金がかかるんだね」と栗子ちゃんもいいました。

　「その後、着工へ向けて、一進一退が続くんじゃよ」

　それから長い長～い月日がたち、

昭和五十七年にやっと富山県の駅が決定。新黒部、富山、新高岡の３駅になったんじゃよ。

「でもね、なんで若栗に駅が決定したの」と若雄くんが言いました。

「それはじゃな、よーく聞くんだよ。全国的に知られている宇奈月温泉が、近い事。それと、当時多くの人が利用していた富山地方鉄道と交差する舌山地内が一番便利と考えられ、若栗に駅ができる事となったんじゃ」

「へえーその時、おじいちゃん、うれしかった？」と栗子ちゃんが聞きました。

「うれしかったたけど、たいへんな事にもなったな」と思ったもんじゃよ。

「なんで」と栗子ちゃんが聞くと「いろんな人達の思いがあってな。反対の人もいたんじゃよ」

「あら、まあ、なんで反対なの、駅が出来て便利になるのに」とおかあさんが言いました。

　そんな事ばかりも言うとられんじゃったんじゃよ。

　地権者の人達は、数年前の北陸自動車道の整備に向けて、土地を提供した人が多くて、再度の農耕地の提供と民家の移転は、とっても忍びがたいもんじゃった。そんな理由で、沿線住民反対期成同盟会が設置され、そして「新幹線ルート絶対反対」の立看板も立てられたんじゃよ。

　「じゃあ、なぜ、よくなったの」と若雄くんが聞くと、

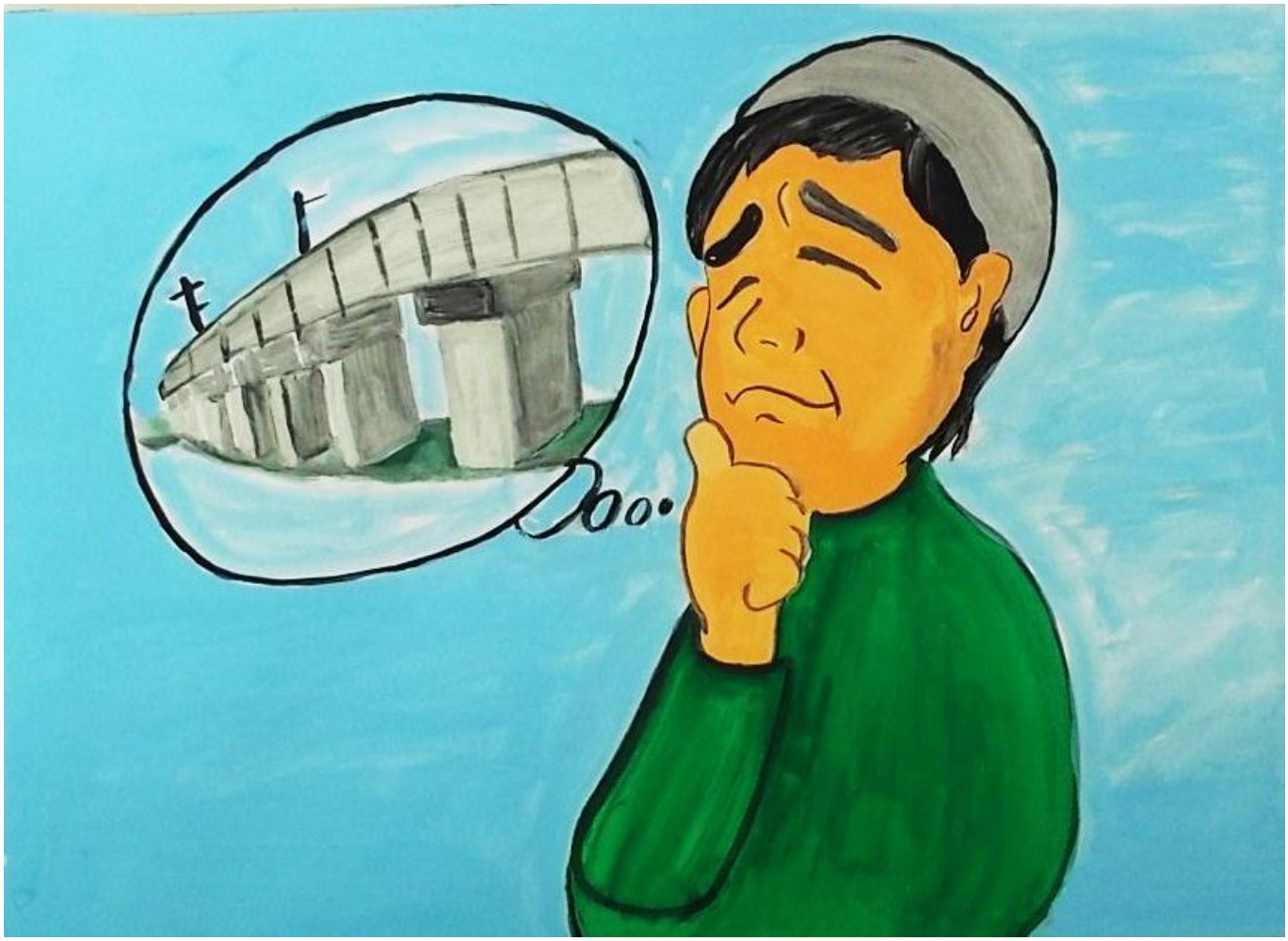
「そう、ここがだいじな事なので、みんなよ～く聞いておくれ」とおじいちゃんが言いました。

　地権者の強い反対も理解できたんじゃが、関係者のたゆまぬ努力と説得で地権者の心を少しづつ、少しづつ、揺るがし、やがて、理解してもらえたんじゃ、そりゃ、たいへんな事だったろう。

　「私も住んでいた家や畑や田んぼを手放すとなったら、とてもさみしいもんね」とおばあちゃんが言いました。

　「土地を提供した人達に感謝だね」とおとうさんが言いました。

　そして反対の立看板も自主的に撤去されたのです。



いよいよ平成に入り、元年には、高崎、軽井沢間が昭和四十八年の整備計画決定から実に十六年ぶりに本格着工され長野冬季オリンピックに間に合うように長野新幹線が開業したのじゃ。

その後、新潟県から工事が始まったが、黒部市の区間は特段な～んの動きもなく本当にこのままでは、北陸新幹線は、出来ないんじゃないかとまで言われはじめたんじゃよ。

「なんで黒部は工事が始まらなかったんですか」とおばあちゃんが言いました。当時、最初は今のような、りっぱな新幹線計画だったのに、途中から、スーパー特急方式といって、JR 魚津駅を利用する方法も考えられたりして、だんだんとあいまいになってきたんじゃ。これを打ち破ったのは、政府の画期的な方針変更だったんじゃ。平成 11 年暮れに当初案のやり方でと決められ、本当にうれしかったもんじゃ。

そのあと、平成十三年度には「富山までフル規格で着工」と決定し、その後、若栗地内の工事の起工式も行われ、工事は一気に進み始めたんじゃよ、政府はお金のめどがついたんじゃろわい。

その後若栗地区の工事も順調に進み、地元関係者の協力もたくさんもらって、平成十四年には、第一次の新黒部駅周辺整備計画も策定され、以来、順調に整備が進み、立派な駅や駅前広場、地域観光ギャラリー、交流プラザ、そして、新しい地鉄の新黒部駅もでき、近くには黒部市の文化財の松桜閣もきれいに整備され、とても行きやすくなったんだよ。

「かわいい鯉たちもいるのよ」と栗子ちゃんが言いました。

本当に長い長～い年月がかかってしまったけど、こうして家族みんなで乗れて幸せじゃ。よかった、よかった。

さあ、わしの話は、ここまでじゃ、いっぱい、話したら、のどがかわいた。

黒部の名水でも飲むかのう。

おじいちゃんのお話はここまでです。

北陸新幹線誕生までには、たくさんの資金、そして先人達の努力、また地権者の協力等、けっして忘れてはいけません。この恩に報いる為にも、これからは、多いに新幹線を利用していただきたいと思います。さあ、若埜さん一家も、もうすぐ東京に着くようです。

「おじいちゃん、私、駅前のプランタのお花に一生けんめい水やりをがんばるの」と栗子ちゃんがいいました。

「ぼくは、四月の一掃ゴミ拾い、駅前のゴミを拾おっと」と若雄くんが言うと、「わたしもいっしょにひらおうかね」とおばあちゃんがいいました。

「じゃ、わたしはおもてなしの心で、松桜閣で観光ボランティアがんばるわ、おとうさんもいっしょにね」とおかあさんが言うと「うん」とおとうさんもうなづきました。「もうすぐ東京です」というアナウンスが鳴り、あっという間の二時間十四分の旅でした。

おしまい